

視点・論点

神奈川 動き出した米軍再編

木元茂夫

八月に入って、神奈川の米軍基地の動きがあらたに大きくなった。広島・長崎の原爆をめぐるさまざまな報道が終わるのを待っていたように、原子力空母母港配備のための浚渫工事が一〇日から始まった。

空母がよく停泊する9号パースの浚渫が行われている。米豪合同演習、キティホークと原子力空母ニミッツとステニス、三つの空母戦闘群が参加した統合軍事演習「バリアント・シールド（勇敢な盾）」を終えて、キティホークが停泊するパースから工事が始まったわけだ。

ヨコスカ平和船団は七月二六日に続いてヨットとボートを出して抗議行動をおこない、陸上でも抗議行動がおこなわれ、夕方からは神奈川平和運動センター、全国実行委員会の抗議集会も行われた。

一方、八月三日外務省は、横須賀市の今年の原子力防災訓練を、「人体および環境に影響をあたえない程度のごく微量の放射性物質を含む冷却水が漏れた」という想定で、米軍が参加して一一月八日に行うと発表した。「原子力艦船の事故はない」としてきた米海軍が一步譲歩したように見えるが、昨年までの訓練では、住民の避難訓練、被爆した住民の搬送訓練なども行われており、「ごく微量の」という想定が、どのように訓練内容に反映するのか注目したい。内容によっては一步も二歩も後退ということも充分予想されるからだ。

キャンプ座間をめぐっては、八月一四日に横浜防衛施設局が、統合作戦司令部（UEX）移転のための、「移行準備チーム」を設置すると発表した。準備チームは三〇人で、在日米陸軍司令部から一五人、座間以外からの要員一五人と発表された。同日、横防の高見沢局長が座間市を訪れ内容を説明したが、星野勝司座間市長は、「基地の恒久化解消策が示されな

いうちに準備が進められるのは残念の一言。市の姿勢は変わらない」と回答、一七日には防衛施設庁の北原長官が相模原市を訪問して説明したが、加山相模原市長は「一方的に進められるのはバランスを欠いており、このままでは市民の理解は得られない」と回答。

第一軍団の移駐を歓迎しない会、基地撤去をめざす県央共闘会議、神奈川平和運動センターは連名で、「新司令部本体の移駐、陸自中央即応集団司令部の移転を阻止する行動を強めていく決意である」との抗議声明を出した。

住民と自治体の意思を、あえて無視をして米軍再編を押し切ろうとする動きが、とうとうはじまった。これと向かい合い米軍再編を阻む運動を拡大していきたい

（きもと しげお／すべての基地にNO！を ファイト神奈川）

原子力空母の安全性を問うシンポジウム

日時 九月二日（日） 一三：〇〇～

場所 総合福祉会館（京急・汐入駅下車徒歩五分）

報告者

梅林宏道（ピースボ代表理事・軍事問題研究者）

野口邦和（日本大学歯学部講師・放射能防護学者）

岡本旦夫（元原発機器設計技術者）

野本哲夫（神奈川県保険医協会公害環境対策部長・医師）

【主催】原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

TEL 046 828 4331